



園舎から広がる 保育とまちづくり について考える

株式会社渡辺治建築都市設計事務所
所長 渡辺 治 氏

手作り体験から始まった
保育園づくり

ある幼稚園では、遊具を立面として建物に張り付ける形で改修をしたことがあります。その時に子どもたちを見ていて気付いたのは、子どもは親の前に来るととてもよく遊ぶということです。高いところに登って「見て見て！」というように親に自分を認識させる行為が何度も観察されました。

ある時は親子で視線を合わせ、言葉はなくても「遊んできてもいい?」「どうぞ!」というようなやり取りを目にしました。親と子どもの遊びの関係とはそのような社会的な関係が成り立っているのではないかと考えるようになりました。子どもが親との信頼関係を基にして行動するように、保育士の方が子どもたちとどのような関係を築けるかが保育の重要なポイントと考えています。

高橋紘先生の「至誠万願寺保育園」は私たちが最初に設計した保育園でした。保育の様子を見てみると、大体の活動が8畳の家で囲っている、広場を8畳の家で囲うようなプランのスケッチを持参したのですが、先生は目の前で同じ

スケッチをしたのでびっくりしました。壁は可動で動くようにしたので、例えば、運動や遊びの時は部屋を広くし、イベント時は全部の壁を抜いて使うというように、保育の要求に応じてレイアウトを変えられるようになっていきます。

その次に、同じ法人・至誠学舎立川の稲永理事長(当時)至誠保育園園長先生から「保育園を作りたことから一緒に考えてよ」と言われたことがきっかけで、老朽化した立川の大きな園舎を建て替える形で保育園を設計することになりました。

幼稚園の設計を多くやってきたので、保育園のことが全く分からない中での設計でした。当初の案はことごとく却下され、先生に納得していただくまでに2年間もかかってしまいました。幼稚園と保育園では設計が全く違うことを思い知らされました。

場所についても、当初川の近くに計画していましたが、うまくいわずに最終的には違う場所に低層で建てる案に落ち着きました。入口部と園庭部では2層分6メートル以上の高低差がある上に、北斜面があっても暗い場所でしたが、それを乗り越えて作ったのが至誠保育園です。3層にわたってこれだけの広い建物を積層させてしま



通信

とうしゃきょうほいくぶかい・つうしん



「おもいで」
八雲台保育園(調布市) 5歳児の作品

特集 園舎から広がる保育と まちづくりについて考える 5

- 部会長挨拶・地区委員紹介…………… 2
- 地区だより「給食」
社会福祉法人和泉福祉会 第二ひもんや保育園(目黒区) … 10
- お知らせ …………… 12
- 編集雑感 …………… 12



す。図書コーナーや、一時保育、それから延長保育の部屋もあります。元の建物は北側にほとんど窓がありませんでしたが、北側を盛大に開けて明るく作り、坂地の緑がきれいに見えます。

入口部の3階には120平米くらいの広場を作り、1階には別の入り口から入れる病児保育のスペースも作っています。

それから10年ほど飛んで、渋谷区に作った同法人の「代々木至誠こども園」の話です。立川と違って、山手通りに面している非常に騒がしい場所で園庭にガラスの防音壁を設けました。また、周りの居住者たちからは「騒音の原因になるから窓を作らないでほしい」といった要望もあり、上の階をセツトバックさせながら長いガラスの屋根を作り彩光しました。

保育園としては初めてではないかと思いますが、子育てひろば事業として親子が安心して過ごせるママたちの情報交換の場となるカフェのような空間をつくり、今は大盛況です。また、職員の方が休憩や作業したりできる部屋として、ワークルームも設けられました。子どもたちのキッチンや、職員用のダイニングもあります。また、

当時の渋谷区長さんの要望で一時保育室も作りました。観察室といて落ち着きのない子をそこで保育して、マジックミラーで観察できる部屋もあります。また、図書室や災害時に備え宿泊が可能な和室の休憩室も作りました。

これは、世田谷区に作られた「梅丘至誠保育園」です。ここでも周りの居住者から視線は通さないでほしいという要望があり、外部空間を2階までのレベルで囲う形で作りました。囲いとつた外部空間にはガラスの屋根をかけて光は上から入れるようになっていきます。このことで窓もカーテンをしないでプライバシーが守られます。都市型の保育園のひとつの形と言えるかもしれません。

見えないをつくる

室内に関してもガラスが多いというのが私たちの特徴の一つです。そうすることで、隣の保育の様子が見られ、助け合えるのと、子どもたちがお互いの遊ぶ姿を見て興味を持つというメリットがあります。施工的にも非常に安いんですね。木造であれば耐火構造壁を作るのに7つ工程がありますが、ガラ

スであればそれが1つで済みます。構造壁以外の壁はガラスにした方が絶対に安くなるわけです。中には、子どもたちが干渉し合うのはあまり良くないから下の方は寒いでほしいという保育園もあります。スタッフが孤独にならないのも大きなメリットです。

それから音響や風の流れ、断熱や換気、空調にはすごく気を使っています。私たちは基本的に24時間の冷暖房機運転することを推奨しています。温度差換気といって、温度が高い空気は軽いので空間の高さを確保し高窓から熱を捨てるという計画によって省エネを達成してきました。このように、私たちは見えないことにも力を注いできました。

もちろん見えるところについても工夫しています。例えば、保育士の方は掲示物を壁に貼ると思いますが、ある時は縦書きで書かれた児童憲章がモノクロでも印刷され、黒い枠に入って貼られています。こういったものを私たちの手で横書きとし、可愛らしく作り直して貼ったことがあります。また、創設者の写真が白黒で飾られているところもありますね。それを可愛いイラストにして、そつと置き換えるなんてこともやっています。

働く人、こどもたちの安心安全な空間

この10年で5棟の設計を行った「ピコナーサリ」という保育園があります。母体は70年の歴史がある「久我山幼稚園」です。この法人で統括をしている野上美希先生は大手人材企業にいた方で、どういった働き場所を作ると職員のモチベーションが上がるかということをよく理解されていました。まずは残業をなくすことから始め、助成金を上手に活用し、多くの子育て事業に取り組みながら職員の待遇を上げていき、規定の2倍以上の職員を雇うことに成功しました。研修も就業時間内にやれています。カフェのような休憩室では、職員の方が休憩や食事をしたり、研修を受けたりしています。そして、保育士1人の募集で10倍以上の希望者が集まるようになりまし

た。最近ではテレビや雑誌で頻繁に紹介され、国も着目し70年間変わらなかつた保育基準が改正されるどころまでできました。

園庭に出られるように設計されています。その結果、こどもたちは朝ストレスなく外に出て走り回ることができます。土間には下駄箱がありません。土間から一段上がった床に名前が貼ってあって、その下の隙間に靴を入れるようになっていて、土間空間が広く確保されました。この保育園では、階段上のガラス屋根から直射光を入れました。すると、この光の下で色々な活動が起き、これにはびっくりしました。わざわざ日の下に本を持って行きそこで読んでいます。閉鎖された空間よりも、風景が見える方が気分よく過ごせるということに改めて気づかされました。ガラスに向かってみんなで並んで作業している姿はまるで子どものカフェのようです。また、階段を挟んで反対にいる友達の姿が見えるので、「私もあれやってみたい！」というようなことが起きるんですね。

地域との連携と働く環境

次に紹介するのは、「至誠いしだ保育園」で日野市にあります。立川の至誠保育園と似たような構成で、室内に大きな広場があって雨の日でも遊べるようになっています。

ここでは保育園からの要望で地域に開放できるサッカー場を作りました。サッカー場と言っても小さなコートですが、5面を網で囲って本格的なサッカーができるようになっており、週末は地域に開放しています。

また同法人がこの近くに児童養

護施設も作りましたが、ここでは畑づくりを地域と一緒にやっています。この保育園は鉄骨造で全て木サツシが使われています。太陽光を北側のガラス屋根で採っており、大きくてもだんだん明るい保育園を作れるようになってきました。

次に、「椎の実子供の家」は三鷹市の当時92歳の鈴木スミ先生が理事長を勤める保育園の建替です。廊下に子どもの絵が貼れるような掲示板を作り、プロムナードと名付けました。プロムナードには日本財団から助成金(子ども第三の居場所)をいただいで作ったカフェのような空間は近所の小学生たちの居場所になっています。

保育園ではありませんが、渋谷区の社会福祉協議会の「景丘の家」を設計しました。これは子供テール事業といって、子ども居場所づくりの一環として作られたものです。この土地と建築の資金は、かつてこの土地と建物を所有していた郡司ひさるさんが「子どもたちのために役立ててほしい」と渋谷区に寄付したもので、老朽化したのをきっかけに建てかえようということになりました。将来的にはどんな施設になるか分からないので、例えば高齢者施設として転用

できるように考えてあります。1階の空間には囲炉があつて、そこに地域の人や子どもや高齢者が集まれるようになっていきます。2階はみんなが食事を作って食卓を囲む調理スペース。3階は保育の広場で、保護者と一緒に遊べるということ、コロナ禍でも年間2万人くらいの方がここを訪れたそうです。

これからは保育士の数が減っている中で、働きたくなくなるような保育園づくりが大切だと考えています。そして、まちづくりと連携した保育園づくりということ、児童を含めて地域の人の居場所づくりも考えていかないとダメです。今日では発達障害児や不登校児なども含めて、色々な社会問題があります。

最近では児童発達支援施設事業所を作ったり、不登校児を対象とする精神病院の設計をしています。職員の方の心のケアもしないといけない時代に入っているのではないのでしょうか。これからの園舎づくりは、どんな時代にも対応できるように可変式で柔軟に、広々として見渡しがよく、誰も孤独を感じない、そして省エネな建物を、時代に合わせた構造体で作ることが大切なのではないでしょうか。

うんですね。今はドイツでも反響が環境の要素として非常に重要になつてきているように、吸音材の有無で雰囲気は全然違つてきます。委員・幼稚園と保育園を建築する時の大きな違いはなんでしょうか？
渡辺：幼稚園でよく言われるのは「遊具をしっかり計画してほしい」ということです。なぜなら、どの幼稚園に入るかを決めるのは子どもなので、子どもたちを惹きつける遊具にしたいそうです。幼稚園は、一生懸命宣伝して子どもを集める必要がありますが、子どもには言葉で言つても通じません。そのため、ビジュアルで勝負するしかない部分があるように思います。また部屋の間取りも、全部の部屋の規格が同じなので、設計者からするとシンプルです。それに対して保育園では、一人当たりの面積を多く確保するように言われます。そのため、廊下も作らず、立派なホールや吹き抜けも必要とされない場合もあります。保育園のことが分かつてくると、光が入るように工夫する必要があります。自由に行けるようになってきました。それでも、年齢によってシンクや家具の高さが違わないといけないし、子どもが出ないよう工夫したり、家具の角を丸めたり

園庭のつくり方の事例に関して

12年ほど前に建てた「東京ゆりかご幼稚園」は敷地が大体3haあつて、里山建築で里山教育をやっているということで、キッズデザイン賞で総理大臣賞をいただきました。内野彰裕園長先生は園庭にピオトープをつくって国交省大臣賞も受賞している方ですが、近年筑波大学で博士課程を取りまして、築山は子どもの養育に良いという論文を書かれたのですが、遊具を使って遊ぶよりも様々な能力が高まることが数値として示されています。園長先生がつくった築山はサーキットがあり、よじ登って遊べるようになっていたり、色々な挑戦ができる要素を備えたものになっていて、論文の集大成として作ったそうです。

最近の建築事情

最近では建築コストが上がつていて、2021年と比べても3割増くらいです。素材の値段が上がっていることと、労働単価が上がっていることが原因で、大きな問題になっています。よくコンクリート造や鉄骨造、木造だとどれが良いのかと聞かれ



委員会

委員：私の働く保育園は古いので、建て替えや改修には興味がありません。

ることがあります。コンクリートの躯体を作るには多くの人数が必要ですが、最近では人手が集まらなくなりました。鉄骨造の場合、80代の溶接工か一人いるだけの工場がありました。本場に職人がいません。鉄骨造と言うとハイテクに聞こえますが、どうやって水平に溶接するのかと聞いてみたところ勘だそう。実際にはローテクです。木造に関しては、向こうが見えないくらい大きいプレカット工場が自動化されて無人で24時間稼働しており、非常にハイテクになっています。そして、木造は弱いと言われることもありますが、コンクリートや鉄、木をそれぞれの比重で割った時の「比強度」で見ると、重さあたりの圧縮強度や引っ張り強度もダントツで木材が強いことが分かります。これからは自然と木造が増えていくのではないのでしょうか。

木造に関しては、向こうが見えないくらい大きいプレカット工場が自動化されて無人で24時間稼働しており、非常にハイテクになっています。そして、木造は弱いと言われることもありますが、コンクリートや鉄、木をそれぞれの比重で割った時の「比強度」で見ると、重さあたりの圧縮強度や引っ張り強度もダントツで木材が強いことが分かります。これからは自然と木造が増えていくのではないのでしょうか。

委員：私の働く保育園は古いので、建て替えや改修には興味がありません。

委員：私の働く保育園は古いので、建て替えや改修には興味がありません。

委員：幼稚園と保育園を建築する時の大きな違いはなんでしょうか？
渡辺：幼稚園でよく言われるのは「遊具をしっかり計画してほしい」ということです。なぜなら、どの幼稚園に入るかを決めるのは子どもなので、子どもたちを惹きつける遊具にしたいそうです。幼稚園は、一生懸命宣伝して子どもを集める必要がありますが、子どもには言葉で言つても通じません。そのため、ビジュアルで勝負するしかない部分があるように思います。また部屋の間取りも、全部の部屋の規格が同じなので、設計者からするとシンプルです。それに対して保育園では、一人当たりの面積を多く確保するように言われます。そのため、廊下も作らず、立派なホールや吹き抜けも必要とされない場合もあります。保育園のことが分かつてくると、光が入るように工夫する必要があります。自由に行けるようになってきました。それでも、年齢によってシンクや家具の高さが違わないといけないし、子どもが出ないよう工夫したり、家具の角を丸めたり

しないといけません。とにかく大変でしたが、おかげさまで他の用途の建物（障害者の建物など）を設計する際にも役立ちました。
委員：私の保育園ではテラスが上手く使われておらず、無駄になってしまつています。特に雨の日や夏の暑い日は全く使えていません。例えば、ポタンで天井が一部開いたり、庇が出てきたりする形で、室内と外部との中間のようなスペースを作ることはできるのでしょうか？
渡辺：まさにそういった空間をよく作っています。直射日光が当たると辛いので、例えば庇をガラスとルーバー状にすると直射光を防ぐことができます。カーテンも不要になり、見通しが良くなります。ガラスを多くしておけば、冬でも太陽がでている日中は暖かく過ごせるので暖房が必要ありません。あとは夏の過ごし方として、熱を逃すことを考えれば快適です。
委員：空気の流れというのはどこでも作れるものなのでしょうか？
渡辺：階高は必要ですが、北側にハイスライド窓を作つて、そこから換気することで熱を入れずに有効に出すことが可能です。昔、田園調布の駅前にサンドイッチ・アイランズ（現ベリカンカフェ）という店を作つた

ことがあつて、そこでは建物の2階のテラスと庭ごとビニールハウスで囲いました。当然、夏になると室温は50度を超えます。ところが、上を開けるようにして、下に空調機をつけたら、熱は全部上から出ていくので、外気と同じ気温になるのです。1階は冷房の冷気は重いので20度台まで下がります。また、冬は日が沈むまで暖房はいりません。このように、100入ってくる熱を99捨てれば、省エネになりますね。しかし、普通の家は全部締め切つてしまつて、入ってきた100の熱を全て冷房するわけです。これでは膨大なエネルギーがかかつてしまうのも分かると思います。熱を捨てれば全然世界が違ってくるわけで、それが私の一つの環境設計の基本になっています。
委員：木は性能がとても高いと感じました。様々な建物構造がありますが、これからはどういったものが増えていくとお考えですか？
渡辺：溶接工などの職人がいないので、木造は増えざるを得ません。最近では木造でも高層の建物がありますが、デメリットとして歩く音が下に響いてしまいます。ある時に作つた学童の施設で、隣の部屋の音がうるさくて授業ができないと言われ、可動間仕切りの隙間を塞ぎ

ながら防音していったことがありました。おおよそ首圧が半分以下になると、普通に授業ができるようになって、これくらいの防音性で良いのかということが分かりました。あまりうるさくなければ気にならないようです。反対に雑音がある方が居心地が良いよう。ただ、特に上下階の音については最初に話しておかないと後でクレームになってしまいます。また、木造といつたら全て木造で作らないといけないという気質は、日本の良くないところだと思います。アメリカやイギリスは、合理的な場所のみに木材を使う。柱までは鉄骨でやって、梁だけは木で作りスラブにコンクリートで打てば音が下に響くことはなくなるのです。ただ、日本の法体系として、混合造の審査が煩雑なシステムになっているので、何が何でも木で全部作ることになつてしまいます。すると、木の性能を活かしきれない部分で値段が高くなるデメリットが出てきてしまいます。互いのメリットを組み合わせるような自由な構造体が認められるようになっていけばというのが正直なところ。正直なところ。正直なところ。